

府立福井高等学校の取組み

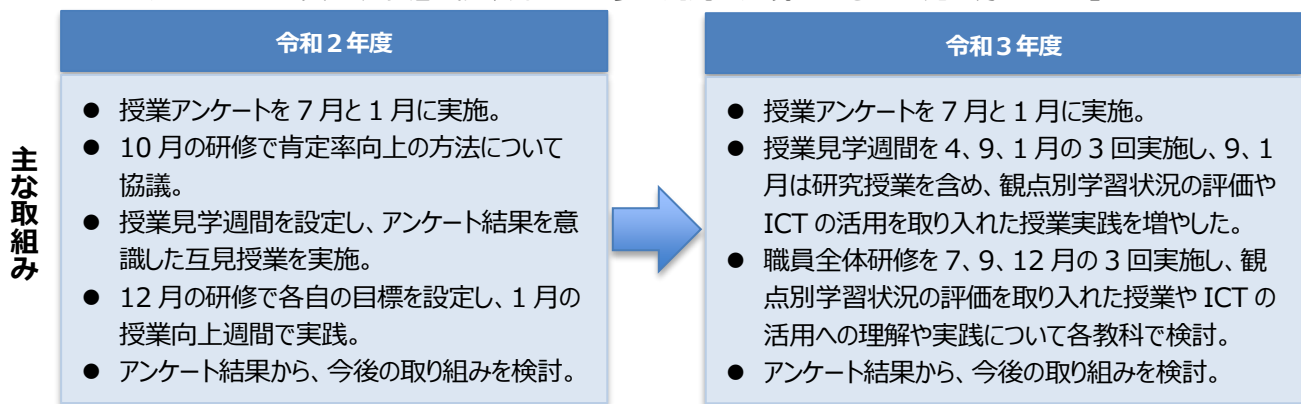
(1) 学校教育目標(めざす生徒像)

「夢・発見・実現」ができる生徒をめざし、総合学科高校の特色を活かしつつ、きめ細かい支援・指導を行い、生徒一人ひとりの「進路実現」を具現する。

- 自己の具体的なキャリアビジョンを設定し、実現に向け粘り強く継続する力を育成する。
- 社会の流れや課題の本質を理解し、自尊感情を持ちながら変化の時代を生き抜く力を育成する。
- 地域や人との繋がりを大切にし、助け合い高めあう関係を築くことのできる力を育成する。
- 外国にルーツを持つ生徒への適切な支援を行うとともに、多文化共生を推進する。

(2) 主な取組みと組織体制の準備

テーマ…「全員で取り組む授業向上 ～ 夢・発見・実現ができる生徒を育てる ～」



※ 授業向上プロジェクトチーム（以降JPT）は令和2年度は11名、令和3年度は5名で構成

※ プロジェクトメンバーによる会議は令和2年度は9回、令和3年度は10回実施

(3) 主な実践とその工夫

① 各取組みを「活性化」する工夫

[研修参加率を上げる取組み]

年間計画に研修の日を組み込み、研修の日は午前授業にするなどして“参加しやすい”研修を心がけた。研修内容については、観点別学習状況の評価や1人1台PCの活用など“参加したくなる”研修を心がけた。また、研修で各教科の代表教員の実践を伝える場を作ったり、JPT自体も毎年メンバーを入れ替えたりすることにより、当事者意識を持つ教員が増えるようにした。

研修日	R210.13	R2.12.3	R3.7.5	R3.9.22	R3.12.9
参加率 (%)	50 (27/54人)	72 (39/54人)	75 (38/51人)	86 (44/51人)	69 (35/51人)

[アンケート回収率・精度を上げる取組み]

教員のアンケートは職員会議中での提出を基本とした。

生徒へはマークシートだけではなく、Google Formでの回答も行った。必要に応じアンケート項目を絞り、回答がしやすいように心がけた。

実施月	R2.7	R3.1	R3.7	R4.1
生徒回答率	98%	94%	93%	87%
教員回答率	60%	87%	86%	82%

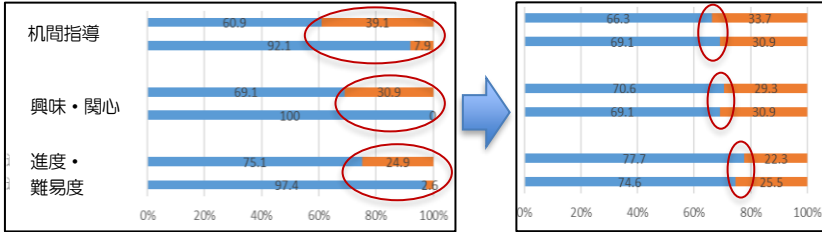
[授業見学を活性化する取組み]

授業見学期間を年間3回に増やした。授業見学は教科内で見学のペアを策定し“見学しあう”雰囲気醸成した。期間内には初任者や10年経験者の研究授業、パッケージ研修に関わる公開授業、各教科授業代表者の授業を設定したり（令和2年度）するなど様々な取組みをした。

② 福井高校オリジナルの授業アンケートと研修を活用した「PDCA サイクル」を確立

「学校教育自己診断」や「授業アンケート」を基に、JPT 内で検討し、独自に教員 17 項目、生徒 14 項目のアンケートを作成した。そしてアンケート結果から、どう授業を向上させていくかを研修で話し合い、授業で実践し、振り返るというサイクルを作った。

[実践結果(令和2年度重点3項目)各項目上が生徒、下が教員]



[実践結果(令和3年度 ICT 活用)]

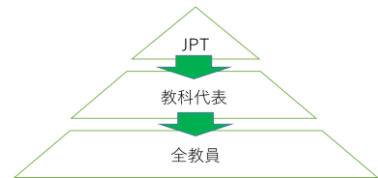
実施月	R2.7	R3.1	R3.7	R4.1
ICT生徒肯定	71%		74%	76%
ICT教員肯定	58%		67%	78%

以上のように、令和2年度は教員・生徒の意識の差がなくなり、令和3年度は ICT 活用の項目の肯定率が伸びるなど、実践結果が表れている。

③ 「スモールステップ」の観点別学習状況の評価導入と1人1台 PC の活用

[観点別学習状況の評価を意識した授業(以下、観点別授業)への理解と実践]

7月実施の研修で教育センターの指導主事より観点別学習状況の評価の基礎知識を教員全体に伝え、教科ごとに考査問題を持ち寄り2観点の内訳を分析した。



8~9月にはそれを基に JPT の5名で観点別授業を実践し、9月の研修で実践結果を発表した。また、並行して3観点を意識した研究授業の振り返りも行った。9月の研修では教科ごとに“どういった学習活動を取り入れると、どの観点を見取れるか”を検討するシートを Google Classroom 上で共同制作した。

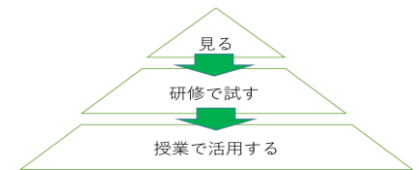
10~11月には各教科代表者が観点別授業を実践し、12月の研修で Google Jamboard を活用し、手ごたえの共有と実践の中で出てきた課題の解決方法を話し合い発表し合った。



12月の研修での発表や指導主事の意見を基に、「福井高校モデル」を作成し共有した。同時に各教科代表者の実践から分析を行い共有した。1月からは、全教員が1つ以上の講座で観点別授業を実践している。

[1人1台 PC を活用への理解と実践]

10月からの授業導入をめざし、7月の研修から教員 Chromebook 端末を使い Classroom への登録とスライドを“見る”ところから始めた。9月の研修ではスプレッドシートでの共同編集の実践と Google Meet の活用方法の説明・実践、12月の研修では Jamboard での共同編集の実践と Classroom や Form の活用方法の説明・実践をし、“試す”機会を設けた。



結果、10月後半から生徒へ渡された端末は徐々に活用が増え、“授業での活用”が浸透した。学校教育自己診断では、以下の項目の割合が大きく増加している。

②③の取り組みを踏まえ、授業改善に意欲的に取り組んだ先生方の成果が表れていると感じる。

	質問項目	R2年度	R3年度	前年比
生徒向け	授業はわかりやすく楽しい	58%	69%	+11%
生徒向け	先生は教え方に工夫をしている	66%	81%	+15%
教員向け	他の教員の授業を見学したり、授業方法等について検討したりする機会を持っている	86%	93%	+7%